

平成24年8月6日
教育振興課全国都道府県教育委員会連合会分科会（7/19 徳島）
意見交換会概要○意見交換テーマ **児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成**

【各県委員長】

- ・新学習指導要領では「生きる力」を重要視し、知徳体がそろうことを求めている。
- ・創造力がないということは、人のことを慮ったりする道義がないということ。
- ・かつての大家族・貧乏の状況とは変わってきた。もまれ方が足りない。
- ・小刀で鉛筆を削らせる。手を切ることもあるが、経験が大事。物を大事にする心も育つ。
- ・週5日制は地域・家庭の時間増のためだが、土曜日に授業、塾通いなどが行われている。
- ・教科書が基礎も応用も入り混じり、ただ厚くなっている感がある。先生も、どう教えていいものか迷う部分もあり、教員の教育が必要である。
- ・地域全体が教育に関心を持ち、子どもを支えていくべき。
- ・社会は車のハンドルの遊びがない状態になってきている。小人数教育や問題意識を持たせる授業を進めていく必要がある。

○意見交換テーマ **グローバル人材の育成**

【各県教育長】

- ・科学技術を担う人材育成とともに、国家的に重要なテーマ
- ・コミュニケーション能力、日本人としての知識、他国の考え方を修得することが必要
- ・企業も海外取引が増加、語学力の有る人材確保が必要。相手方の状況を知ることも大切
- ・どのようなレベルの人材を、どのように育てるか。大学との連携も必要
- ・教員確保のため、高い語学力を持つ受験者の一次試験を免除している。
- ・内向き志向、社会全体の自信喪失がある。日本人はもっと自信を持つべき。
- ・アントレプレナーシップ（企業家精神）と併せて考えるべき問題ではないか。

- ・アジアを視界に入れることが大切。対中国・韓国への人材養成が必要。
- ・日本は技術立国の国であり、世界につながることの意識を持つことが大切
- ・中小の地場の企業では、日常英会話を出来る程度の人材が必要だが、不足している。

県立学校長と意見交換会概要（テーマ毎）

○第 1 分科会の記録

藤島、高志、羽水、足羽、三国、金津、丸岡、勝山、大野

1 今後の高校教育について 各校の現状と課題（取組）を報告

学校名	状況報告
足羽 丸岡 勝山	☆多様な生徒への対応が求められている。 ・ 1, 2 年生全員の補習、模試参加 ・ 学び直しのための学校設定科目 ・ 上位生徒と下位生徒への対応 ・ 授業改善 (ICT 活用) ・ 生徒指導体制の在り方 (全体で規則遵守を指導)
金津	☆創立 30 周年を迎えて、次の 10 年へのビジョン策定 ・ 市、中学校、歴代 PTA 会長等とヒアリング
三国	☆坂井地区高校再編に向けて ・ ビジョン委員会で組織的な取組 (職業科生徒の進路意識の高揚等)
藤島	☆21 世紀を担うリーダーの育成 ・ 自主性 → 自信喪失の生徒への対応 (心身症、不適應) ・ 教員、保護者の意識改革 ・ キャリア教育の視点 (系統的なものに、カリキュラムに反映)
羽水 高志 大野	・ 発達障害の生徒への対応 (個別対応、カウンセラー体制の強化) ・ AO 入試 (縮小化) 基礎学力、自己表現力等の育成 ・ 難関大学進学者の減少 ・ 定時制の生徒増加 (施設設備) ・ スーパー特進クラスの在り方
羽水	☆創立 50 周年に向けて ・ 同窓会の立て直し

◎林教育委員長より

☆学校訪問における授業参観の印象から

- ・ 自分の高校時代と殆ど同じ (民間ベースでは 30 年で変わらなければ生き残れない)。
- ・ ICT の活用などわかりやすい授業に向けた工夫が必要。
- ・ 少人数で効果があるのならば、グループ討議など工夫し、積極的に転換を図るべき。

◎林教育長より

- ・ 教育において普遍的なものは何か (サービスを受ける側の視点で)。
- ・ 教員が社会をよく理解し、何を与えるべきかを明確に (最先端のことを取り入れる)。
- ・ 目指す生徒像を明らかにする (柔軟に考えながら仕組みをどのように構築するか)。
- ・ 学力向上センターを設置し、県教委でも考えていくが意見を聞かせて欲しい。

○第2分科会の記録

丹南・丹生・武生・武東・敦賀・美方・若狭・若東・鯖江

1 今後の高校教育について 各校の現状と課題（取組）を報告

学校名	状況報告
鯖江	・入学してくる生徒の学力層が大きく変化（トップ層減）している。
丹南	・全国の総合学科設置校を参考に、選択教科のミスマッチを無くすことが課題。
丹生	・授業等を通じて地元中学校との連携強化（中高一貫） ・教員の指導力向上を目指し、公開授業など様々な取組をしている。 ・不登校生徒一人一人のカルテづくりを進めている。
武生	・入学してくる生徒の学力層が大きく変化（トップ層減）している。 ・教員の指導力向上を目指し、公開授業など様々な取組をしている ・生徒の交通事故が多いので、指導強化をしている。
武生東	・生徒一人一人が日誌作成（学習時間等記入） ・地区別懇談会を実施している。
敦賀	・入学してくる生徒の学力層が大きく変化（トップ層減）している。 ・生徒一人一人が日誌作成（学習時間等記入） ・土、日曜日に半日以上部活動を行う場合に、顧問に生徒の学習時間確保の手段を提示させている。
美方	・授業等を通じて地元中学校との連携強化（中高一貫） ・定員割れがおきてきている。
若狭	・難関大学へ進学する生徒を増加させたい。 ・高校再編に向けて、地元の理解が得られるよう努力中。
若狭東	・高校再編に向けて、地元の理解が得られるよう努力中。

◎川畑教育委員より

- ・丹南・嶺南ブロックは、全県一区になってからトップ層が流れていく傾向にあるが、地元の普通科高校として魅力ある、特色ある学校を創ってほしい。
- ・学力向上を図る上で、ただ机に向かって勉強だけやればいいのではないかという考えがあるが、24時間すべてが勉強時間ということをもっと考えさせるべきである。自ら体力を向上させ、健康の維持・増進を図っていくことが将来の伸びにつながる。切りかえを早くして時間を有効に使えるように指導することも必要。例：食事（しっかり噛むことで健康を）、登下校（一生懸命歩くことで体力向上を）

◎小和田企画幹より

- ・各学校の平日や土・日曜日の部活動の時間はどうなっているか。土・日曜日のどちらか1日を休みにする学校も有る。

○第3分科会の記録

福井農林、坂井農業、小浜水産、科学技術、春江工業、奥越明成、武生工業、敦賀工業、福井商業、勝山南、武生商業、道守

1 今後の職業教育の充実について 各校の現状と課題（取組）を報告

※専門学科は、学科ごとに多種多様な内容を学習するため、職業教育の充実を図るための視点等として挙げてきた事柄をもとに、3点にまとめた。

項目と状況
<p>① 地元で根ざした人材の育成を目指す。</p> <p><地域密着型の高校></p> <ul style="list-style-type: none">・福井県内の中小企業を支える人材の育成が学校の与えられた使命である。そのため、地域の企業や研究機関、幼稚園・保育園、小中学校、特別支援学校、大学等との連携を進めている。（新規事業の「企業連携型地域産業担い手事業」等の活用）
<p>② 再編による学科の再編成</p> <p><総合産業高校>の新設</p> <ul style="list-style-type: none">・奥越地区、若狭地区、坂井地区の3地区でスタートしている。・奥越地区は奥越明成高校がスタートしている。タイプの違う5つの学科からなり、職員等の連携協力が課題となっている。・若狭および坂井地区については現在進行形となっている。小浜水産の取り組みとして「魚好きの子を育てる」が挙げられる。給食のメニューの研究などを進める中で、地域に貢献できる学校でありたいと努力している。・再編による不安として、施設設備面の充実が図られるのかという点と、人員面の充実が挙げられた。
<p>③ 課題等</p> <p><教員の高齢化></p> <ul style="list-style-type: none">・専門学科の教員の年齢別構成は偏っていて、特に若い年代の教諭が少ないところが多く、教員の文化の継承面からも問題となる。 <p><施設設備の老朽化></p> <ul style="list-style-type: none">・施設設備が古く、技能習得の面において障害になっている。たとえば、ものづくりコンテストで他県との競い合いで、不利になっている現実がある。（例 旋盤加工など）

◎清川教育委員より

- ・職業高校は、県内の中小企業を支える人材を育てている意識を。企業からすると、欲しいと思う人材がいない。
- ・コミュニケーション力を含む人間力の育成が大事だ。そのためには、自信を持たせる経験をさせることが大切。それは、部活や資格取得での成功体験とも言えるし、苦勞体験とも言える。
- ・更に、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）も重要。

○第4分科会の記録

盲、ろう、福井養護、福井東養護、福井南養護、嶺北養護、清水養護、南越養護、嶺南東養護、嶺南西養護

1 特別支援教育の今後の進め方について

学校名	現状や課題
盲	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減少している。保育園や小中学校の視覚障害の生徒に専門的な支援を行い、学校に対する垣根をとれるよう、丁寧な教育相談をしている。 ・晴眼者があん摩マッサージ業に就労できるようになり、理療科の生徒の就職先が狭まっていることも課題。
ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における聴覚障害教育の専門性を育てることが大きな課題。インクルーシブ教育が進む中で、保健所、幼稚園、保育所、小・中の先生など、早期発見、早期教育、就学指導、教科指導にかかわる人が聴覚障害教育を知っていることが非常に大事（啓発活動が大きな課題）。
福井養護	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの必要な生徒から大学進学をめざす生徒まで多様なニーズに応える必要がある。 ・カリキュラムや食事の形態、教材教具、施設設備やリフト付きバスなど多様な環境整備が必要。
福井東養護	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の生徒が半数を占めており、中でも心身症等の生徒が多く、その対応が非常に難しい。 ・医療的ケアを必要とする児童生徒については、看護師の確保等医療面の課題がある。
福井南養護	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学校の特別支援学級、通常学級から高等部に入学する生徒が増加し、就労支援や職業教育に力を入れている。
嶺北養護	<ul style="list-style-type: none"> ・奥越地区の特別支援学校への転学希望者は奥越地区在住の生徒42名中27名。 ・県内最大の特別支援学校で、このままいけば来年は44学級となる。生徒数も多く、施設・設備が問題となっている。
清水養護	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少なく、増やすために地域の学校での啓発活動を行っている。
南越養護	<ul style="list-style-type: none"> ・80名想定で開校した学校だが、現在118名の在籍で、施設面で無理が出てきている。 ・知・肢・病対応の学校だが、知的障害が主で、肢・病に対する教師の専門性がより課題となる。
嶺南東養護	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの学校を統合し、高等部を増設してできた学校で、校舎の構造の複雑さ、老朽化等、施設・設備の問題がある。 ・116名の児童生徒のうち知的障害者が107名、知的障害を持たない者は7名。総合養護学校として、肢・病に対する専門性を高めなければならない。 ・中学校からの進学があるため高等部生が最も多い。進路先確保が課題。
嶺南西養護	<ul style="list-style-type: none"> ・校区が広く、センター的機能でカバーする範囲が広すぎる。

◎平泉教育委員より

- ・学校に通えている子どもは幸せ。でも卒業後はどうしたらいいのかと考えてしまう。
- ・就労できている人も幸せである。卒業後の社会的な受け皿が必要。
 - 福井養護：学校でも卒業後の移行支援を行っている。福祉の方でもグループホーム、ケアハウス等による対応を用意していると思う。
- ・田舎で孤立している人もいるのではないか。年老いた親が、誰にも頼れず子どもの面倒をみている、そういう状況がないようにしてほしい。